

一般社団法人

日本テレマン協会

2014年度 社会的活動報告書

文化が創造する
新しい社会の
ありかたを追求

Telemann Institute Japan

文化が創造する新しい社会のありかたを追求

日本テレマン協会は延原武春のもと、常に最新の試みと新しい価値観の創造をめざす文化活動を続けてきました。大阪倶楽部を舞台にした室内楽コンサート、教会聖堂での宗教音楽公演にはじまり、バロック楽器・クラシカル楽器によるアプローチや、ベートーヴェンのテンポ指示を忠実に守った「第九」など、その例を挙げればきりが無いと言っても過言ではありません。

また中野順哉が協会に入ること、「社会の営み」を意識した試みも開始。演奏活動を通じた琵琶湖の水質浄化やボルネオの森林保存、あるいは地域の歴史を題材にした講談とのコラボレーションな

ど、文化団体による社会づくりの新たな可能性も追求してきました。

2011年に中野が代表となることで、目下当協会は「独自のオピニオンを持ち、シンクタンクを内包する団体」を目指しております。崩壊寸前のコミュニティの再生や、大阪の国際発信力強化などが最近のテーマではありますが、おかげさまで多くの人々に共感をもって受け入れていただくことが出来つつあります。これまで育ていただいた人々・地域に対し、我々に何が出来るのかを探求できればと考えております。

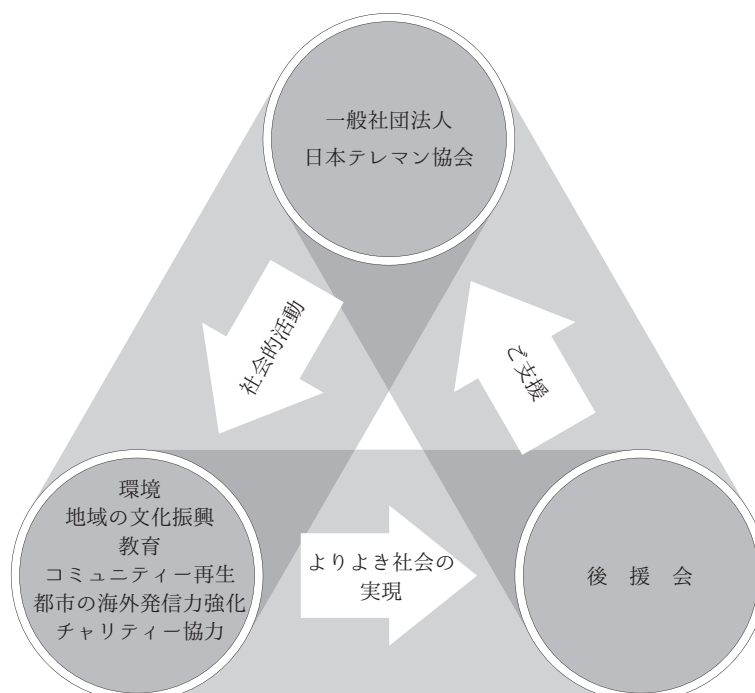
同時にこのような研究を重ね活動を

続けていけるのは、我々の活動に対し深く理解してくださる支援団体があるからに他なりません。

そこで今年度も冊子の形で、ご支援くださった皆様に我々の社会活動についてご報告をさせていただくことに致しました。この冊子が皆様によりいっそうのご理解を深め、末永いご支援をいただける「パスポート」となることを願ってやみません。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

一般社団法人日本テレマン協会
日本テレマン協会後援会



文化が創造する新しい社会の ありかたを追求

日本テレマン協会について

日本テレマン協会について **04**

年表 **07**

2014 年度における協会の活動を
支えてくださった皆様 **08**

1 環境

1-1

琵琶湖水質浄化の紙
(=レイクパピルス) の使用 **10**

1-2

サラヤ株式会社との協働による
「ポルネオの環境保全」 **11**

2 地域の文化振興

2-1

各地のサロンづくり **12**

2-2

講談と室内楽のコラボレーションによる
「音楽絵巻」 **15**

2-3

平野区の「第九」 **17**

2-4

大阪商工会議所の活動への参加 **17**

2-5

コミュニティー再生のコンサート **17**

CONTENTS

3 教育

3-1

日本テレマン協会の学校公演 **18**

3-2

大阪市ユースオーケストラの指導・育成 **19**

3-3

アマチュア団体の指導・育成 **19**

3-4

信州大学学生との協働 **19**

3-5

相愛大学学生との協働 **19**

3-6

関西学院大学との包括協定締結 **19**

4 都市の海外発信力強化

4-1

ハンブルク市・大阪市
友好都市提携 25 周年記念公演 **20**

4-2

「フェット・ドゥラ・ミュージック」啓蒙公演 **21**

4-3

サンクトペテルブルク市・大阪市
姉妹都市提携 35 周年記念公演 **21**

4-4

ロシア総領事館公演 **21**

4-5

オランダ総領事公邸公演 **21**

4-6

タイ国王陛下御生誕 87 周年
祝賀会における両国国家独唱 **21**

4-7

トルコ文化とのコラボレーション **21**

4-8

「私が見た大阪文化」発行 **22**

5 チャリティー協力

日本テレマン協会とチャリティー **22**

日本テレマン協会について

延原武春によって創設されたバロックからベートーヴェンまでを専門とする室内楽団。「テレマン室内オーケストラ」と「テレマン室内合唱団」を有し、また「日本テレマン協会後援会」がサポートをしている。

設立は1963年。当時大阪音楽大学の学生だった延原武春が「バロック音楽の普及・啓蒙」と「楽しさ」をテーマに、新しい演奏会の可能性を追求すべく「テレマン・アンサンブル」を結成したのがその始まり。「定期演奏会」のほか、聴衆とともにサロンを形成しようとした「マンスリーコンサート」、宗教音楽を教会の聖堂で奏でる「教会音楽シリーズ」などを軸とし、関西を中心に全国的な活動を展開。1977年「文化庁芸術祭優秀賞」、1986年「第17回サントリー音楽賞」を受賞。

2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲をクラシカル楽器にて公演。これが引き金となって延原は2009年ドイツ連邦共和国より功労勲章を受章。以後延原は日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などを指揮し、好評を博す。

2011年、代表が延原から中野順哉に交代。現在は「音楽団体が社会に対して出来ること」をテーマに、「琵琶湖の水質浄化」「街と音のコラボレーション」「ボルネオの森林保全プロジェクト」「関西発クラシック『国産』宣言」をはじめ様々なオピニオンをかかげた新しい団体として生まれ変わりつつある。



関西発クラシック「国産」宣言

新代表・中野順哉によって生まれたオピニオンの第一弾。きっかけは東日本大震災以後外国人の演奏家が来日しにくいという事態に陥った折、多くの新聞が「興業にどのような損害があるか」と報道していたことだった。中野としてはこの時期にこそ、クラシックの分野における「国産」とは一体何であったのかを問い直したいと考えた。「国産」とは「演奏家が日本人」という意味ではなく、この国

で何が育まれたのかという「場」の力のこと。例えば大阪で毎月開催してきたマンスリーコンサート。「コンクールではなく国内のサロンから演奏家を生みたい」という延原武春の思いのもと、ここでは演奏家と聴衆がともに独特の価値観を生み出してきたといえる。その価値観をベースに高田泰治、浅井咲乃といった演奏家も輩出された。協会としてはこれを一つの生産的なモデルケースとし、また精神の支柱の一つとすべくロゴを作成し、協会の新たな旗印とすることにした。





テレマンとは

ゲオルク・フィリップ・テレマン。1681年3月14日～1767年6月25日。後期バロック音楽のドイツ人作曲家。バッハ、ヘンデルも足元に及ばないほど高い評価を受けていた作曲家で、大変な多作家としても有名。延原武春はテレマンの自叙伝にあった「人が喜ぶために作曲している」という言葉に感銘を受け、彼の名をかかげたグループを結成した。代表的な作品は「食卓の音楽」という曲集。

大変面倒見の良い人物でもあったようで、バッハの次男の名付け親でもあり、また自身がハンブルクで臨終の時を迎える際、後継者にその「次男」を指名したという逸話も残っている。またヘンデルとの親交は深く、ロンドンから様々な珍しい植物をヘンデルは彼宛に送っていたとか。またテレマンが「食卓の音楽」を出版する際、予約者の最初の方にヘンデルの名が入っていることも有名な話。

バッハ、ヘンデルにとっては「偉大なる先輩」であったテレマン。彼の作品だけではなく、その心意気を伝えたい…それが私たちの使命でもある。

延原 武春 TAKEHARU NOBUHARA (日本テレマン協会 音楽監督)

1963年 日本テレマン協会の前身である“テレマン・アンサンブル”を結成。

以来50年余の歳月を経てその業績は目覚ましく、日本におけるバロック音楽の探究と普及という専門的領域のみならず、その広い視野と行動力によって、特に西日本における音楽文化の広範な普及に多大な貢献をもたらした後、近年では長年の古楽探究を礎とした音楽解釈とその熟練された手腕を持つ巨匠指揮者としての今後が多いに嘱望されている。

指揮者としてライブツィヒ放送交響楽団をはじめとする海外のオーケストラとの共演の機会が幾度もあったにも関わらず、その主眼はあくまでも自らが創設した日本テレマン協会での活動に注がれた。

1970年代後半からその評価は関西を超えて全国的なものとなり、テレマン室内オーケストラ・テレマン室内合唱団との演奏は文化庁芸術祭・優秀賞やサントリー音楽賞を受賞するまでに高く評価されることとなり、さらにはライブツィヒで開催されたバッハ生誕300周年記念国際音楽祭に日本の団体としては唯一招かれ、J.P. ランパル、H.J. シェレンベルガー、A. ビルスマなどの名手との共演の他、J.E. ガーディナー、F. ブリュッヘン、C. ホグウッド、G. ボッセ等とも親しく交流することとなる。

延原武春の音楽的業績は、教会の聖堂を舞台としてテレマン作曲の『マタイ受難曲』やヘンデルの『メサイア』9種類の異版を取り上げるなど枚挙に暇がないが、殊にユニークなのが1982年にベートーヴェンの第九交響曲を初演当時の編成と作曲者指定のテンポに従って演奏すること・・・これはその当時としては極めて斬新なアプローチであったため、ガーディナーやホグウッドといった古楽演奏家達が延原の第九の録音を所望したというエピソードは大変興味深い。

延原のベートーヴェンに対するアプローチはこれに留まるものではなく、2008年にはクラシカル楽器によるベートーヴェン：交響曲全曲・合唱幻想曲・ミサ・ソレムニス・ツィクルスを挙行。これが契機となり延原は『ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小授章』を授賞することとなった。

2009年には大阪フィルハーモニー交響楽団に客演（民音主催）し、J. ブラームス：交響曲第1番を指揮。2010年～12年には同楽団は延原とともにベートーヴェン：交響曲全曲シリーズを主催。『大阪フィルの次代を拓く』と言って過言ではない名演と『田園』がかくも力強く、生命力にみちた音で鳴り響いたことはなかったのではないかと（評：故小石忠男／日本経済新聞9月30日夕刊）等と絶賛を博するなど一際大きな話題となった。

また、同時期に日本フィルハーモニー交響楽団横浜定期演奏会にも客演。その際のブラームス：交響曲第1番はEXTONレーベルからCD化された。2011年には延原の元に多くのプレイヤーが集う”一日だけのオーケストラ”としてOrchestra Japan 2011が結成され、マーラー：交響曲 第4番を演奏。その演奏はライヴノーツ・レーベルからリリースされ『レコード芸術』誌で特選盤に選ばれた。これらの成果が契機となってこのオーケストラは2012年にも再結集され、京都・大阪・神戸でやはりドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」など、ロマン派のレパートリーを取り上げ、好評を博した。また、東日本大震災追悼・復興祈念コンサートとして、いずみホールでブラームス：ドイツ・レクイエムを、2014年、2015年と2年連続で演奏。2014年の公演はライヴノーツ・レーベルよりCD化され、話題となった。

かつて、アーノンクールやガーディナーといった古楽のスペシャリストたちがヨーロッパのモダン・オーケストラから指揮者として招かれるようになったのと似通ったムーブメントが今、延原武春のもとにも起ころうとしている。





中野 順哉 JUN-YA NAKANO (日本テレマン協会 代表)

作家。日本テレマン協会代表。小説を阿部牧郎、浄瑠璃台本を七世鶴澤寛治の各氏に師事。関西学院大学文学部フランス文学科卒業。在学中より日本テレマン協会の活動にライターとして参加。1993年には同協会の季刊誌「ゲオルク」を立ち上げる。

2000年、琵琶湖浄化の紙をチラシ・プログラムに使用することで、テレマン協会の活動を通し年間50,000トン以上の湖水を浄化するという企画を立ち上げる。同年より旭堂南左衛門とともに創作講談を手掛ける。同時に各地の歴史をテーマに創作した講談と音楽のコラボレーション＝「音楽絵巻」をプロデュース。上演した講談はすでに100作以上にのぼる。

さらにはアジア各国の隠れたストーリーを講談にして、日本に紹介するという活動も開始し、すでにトルコ、ヴェトナム、オマーンの物語を発表。

2011年に日本テレマン協会二代目代表に。「関西発クラシック『国産』宣言」や、協会創立50周年記念事業「大大阪ターフェルムジーク」などをプロデュースし、現在は成熟社会における文化の使命として、「ベッドタウンでのコミュニティー再構築」に力を注ごうとしている。また文化団体による「大阪の国際発信」をめざし、各総領事館や母校関西学院大学との連携に着手。2014年に日本テレマン協会と関西学院大学の包括協定の締結を実現。同年、日本テレマン協会独自の大阪文化論「私の見た大阪文化」を執筆・編集し、各国総領事館を中心に配布。続く2015年には中之島中央公会堂を舞台にバッハ「ブランデンブルク協奏曲」全曲公演を毎年することを宣言。ブランデンブルク州首相よりメッセージを得、行政から独立した民間団体による独自の都市発信に成功。

関西学院大学非常勤講師。代表作に「小説・延原武春」（東方出版）がある。

テレマン室内オーケストラ Telemann Chamber Orchestra

1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。「サントリー音楽賞」を受賞した日本初のプロオーケストラでもある（同賞は現在も当協会と東京交響楽団、京都市交響楽団以外のプロオーケストラは受賞していない）。そのほかの主な受賞歴は、「大阪文化祭賞」、「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、「文化庁芸術祭優秀賞」（関西初）等。



1990年バロック・ヴァイオリンのサイモン・スタンデイジをミュージック・アドバイザーとし、バロック楽器（18世紀当時の楽器およびそのレプリカ）による演奏を始める。2003年にはドイツのバッハ・アルヒーフから招聘を受け「バッハ・フェスティバル」に出演し、C.P.E. バッハ「チェンバロ協奏曲 Wq1」を世界初演した。

2006年からはクラシカル楽器（古典派の時代に使用された楽器およびそのレプリカ）による演奏を始め、2007年には同楽器によるF.J. ハイドンのオラトリオ「四季」を好演。「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞した。

「マンスリーコンサート」（会場は大阪倶楽部4階ホール）を舞台に「聴衆とともにつくる価値」の創造に力を入れ、そこをベースに様々な奏者を輩出している。チェンバロおよびフォルテピアノの高田泰治、ヴァイオリンの浅井咲乃などはその代表的な存在として注目を集めている。

2012年にはドイツよりバロック・ヴァイオリン奏者ウッラ・ブンディース氏を首席客演コンサートマスターとして迎えた。



テレマン室内合唱団 Telemann Chamber Chorus

1969年に延原武春が創設した合唱団。主にテレマン室内オーケストラとともに演奏活動を続けており、1985年にはドイツで開催された「J.S. バッハ生誕300年記念国祭音楽祭」に招待され、現地新聞等で当時大きな評判となる。カトリック夙川教会に於ける「教会音楽シリーズ」は公演回数180回を数え、当合唱団にとっての最も大きな活躍の場となっている。これまでに、G.F. ヘンデル作曲「メサイア」の9種の違ったバージョンを年一回のサイクルで連続的に公演したシリーズや、「ヘンデル本邦初演オラトリオシリーズ」、或いは、幻のテレマン作受難曲集の公演「テレマンプロジェクト」、「延原武春の受難曲シリーズ」などを開催してきた。

年 表

- 1960
- [63] ● 延原武春氏を中心にテレマンアンサンブル発足（現：テレマン室内オーケストラ）
 - [65] ● 定期演奏会スタート。
 - [66] ● 大阪文化祭賞（以後 72 と 82）
 - [68] ● マンスリーコンサートスタート（会場は津村別院）
 - [69] ● テレマン室内合唱団が発足し、室内楽における総合団体「大阪テレマン協会」となる。
- 1970
- [70] ● 音楽クリティッククラブ賞（以後 75 と 76）
 - [75] ● 大阪府民劇場賞（以後 85）
 - [77] ● 文化庁芸術祭優秀賞（関西より初受賞）
 - ビクターレコード制作「テレマン協会シリーズ」発売開始。
- 1980
- [81] ● G.Ph. テレマン生誕 300 年を記念し、コンサート（文化庁芸術祭主催）、出版、レコードを発売。
 - [82] ● 定期演奏会にて L.v. ベートーヴェン交響曲第 9 番「合唱付」を合唱団・オーケストラ合わせて 100 人で演奏（100 人の第九）
 - テレマン室内管弦楽団がドイツへ演奏旅行。テレマンの生地マクテブルクでの公演実現。
 - [84] ● マンスリーコンサートの会場が大阪倶楽部になる。
 - [85] ● テレマン室内合唱団・同管弦楽団総勢 70 名、東ドイツへ演奏旅行。（“バッハ生誕 300 年記念国際音楽祭”に出演）
 - サントリー音楽賞（関西より初受賞）
 - [87] ● 「ベルリン市制 750 年記念音楽祭」に参加。また、ロンドンデビュー公演を実現。
 - 「ソウル国際音楽祭」参加。日本の室内楽団では初の韓国公演。
 - [89] ● テレマン室内合唱団が創立 20 周年を迎え、教会音楽シリーズも 100 回記念演奏会を行う。
 - フランス革命 200 年を記念し、パリ、ポルドー、ヴァルドアーズ各都市で公演を行う。
- 1990
- [91] ● バロック楽器の団体「コレギウム・ムジクム・テレマン」が発足。サイモン・スタンデイジや中野振一郎主導のもとで、様々な試みに着手。海外公演やCD収録の他、数多くの本邦初演・世界初演を行う。
 - G.F. ヘンデル「メサイア」の異なった 9 種の版を連続的に公演。（～ 01）※
 - [93] ● 季刊誌「ゲオルク」創刊（～ 03）
 - [95] ● G.F. ヘンデルの権威・故渡部恵一郎氏の監修のもと、ヘンデル作曲の本邦初演のオラトリオをジェスチャー付きで連続公演。（～ 01）
 - [99] ● 中野振一郎&コレギウム・ムジクム・テレマンによるドイツ演奏旅行。
- 2000
- [00] ● ヘンデルのオラトリオ公演にて、上方講談師・旭堂南左衛門が共演。
 - 琵琶湖水質浄化の紙の使用開始。演奏会を通じた環境改善活動に着手。
 - 小説「延原武春」（作：中野順哉）が東方出版より出版。
 - (CD) デンオン制作「J.S. バッハ：チェンバロ協奏曲集」リリース。
 - [02] ● 御当地の歴史を取材した創作講談とのコラボレーション「音楽絵巻」がスタート。
 - 高田泰治がチェンバロ、フォルテピアノ、ピアノを弾き分ける協奏曲の夕べに出演し、ソリストデビュー。
 - (CD) マイスター・ミュージック制作「ラ・フォルリア」リリース。
 - (CD) 「バッハ以降のチェンバロ協奏曲集」リリース。
 - [03] ● 中野振一郎率いるコレギウム・ムジクム・テレマンがドイツへ演奏旅行。「バッハ・フェスティバル in ライプツィヒ 2003」に出演し、C.P.E. バッハ作曲「チェンバロ協奏曲」の復元後、世界初演を行う。
 - (CD) ライヴノーツ制作「オーボエ協奏曲・バロック名曲集」リリース。
 - [04] (CD) 「星に願いを」リリース。
 - [07] ● ハイドン作曲オラトリオ「四季」の公演が大阪文化祭グランプリ受賞。
 - [08] ● 協会創立 45 周年を記念して、延原指揮によるベートーヴェン交響曲全曲及び合唱幻想曲、荘厳ミサ曲連続公演を開催。ベートーヴェンの指示したテンポとクラシカル楽器の使用によるこの公演は高く評価されCDに。
 - (CD) 「テレマン作品集②7つのトリオ・ソナタ」リリース。
 - [09] (CD) 「ベートーヴェン・チクルス」リリース。（～ 11）
 - 延原、ドイツ連邦共和国より功労勲章を受章。
 - 延原が大阪フィルハーモニー交響楽団を指揮するシリーズ（ベートーヴェン交響曲全曲）が始まる。
 - 「テレマン室内管弦楽団」改め「テレマン室内オーケストラ」に改称。
 - [10] ● 延原、日本フィルハーモニー交響楽団の横浜定期演奏会を指揮。
- 2010
- [11] ● 協会代表が延原から中野順哉に。
 - コレギウム・ムジクム・テレマン解散。
 - 「指揮者・延原で」というコンセプトのもと、関西在住のフリーランスの奏者を集めオーケストラを結成（orchestra Japan 2011）し、マーラー交響曲第 4 番を演奏。
 - (CD) オクタヴィアレコード制作「ブラームス：交響曲第 1 番」リリース。
 - (CD) ライヴノーツ制作「高田泰治チェンバロ・アルバム Vol.1」リリース。
 - [12] ● U. ブンディース、首席客演コンサートマスターに就任。
 - 延原、orchestra Japan 2011 を率いてドヴォルザーク交響曲「新世界より」を好演。
 - (CD) 「マーラー『亡き児を偲ぶ歌』『交響曲第 4 番』」リリース。（「レコード芸術」特薦盤）
 - (CD) 「浅井咲乃：ヴィヴァルディ『ムガール大帝』」リリース。
 - [13] ● 創立 50 周年事業「大大阪ターフェルムジーク」を中野のプロデュースのもとで開催。
 - (CD) 「U. ブンディース 高田泰治 J.S. バッハ 6つのソナタ」リリース。
 - [14] ● orchestra Japan 2011 を再結成し、3月11日にレクイエムを奏で続ける追悼公演を開始。

※G.F. ヘンデル「メサイア」9種の異版連続公演

1991年9月2日	1742年ダブリン版	1998年4月26日	Vol.5	1751年版
1994年2月27日	Vol.1 1743年ロンドン初演版	1999年6月27日	Vol.6	1750年II版
1995年6月25日	Vol.2 1749年版	2000年7月2日	Vol.7	1752年II版
1996年2月18日	Vol.3 1750年版	2001年6月10日	Vol.8	1753年版
1997年6月18日	Vol.4 1752年版			

◎ 2014年度における協会の活動を支えてくださった皆様

・日本テレマン協会後援会

会 長	野村 明雄	(大阪ガス株式会社 相談役)
副 会 長	本城 正哉	(住友生命保険相互株式会社 顧問)
	脇阪 聡史	(朝日放送株式会社 代表取締役社長)
理 事	福田 里香	(パナソニック株式会社 常務役員)
	原 眞一	(コーナン建設株式会社 代表取締役社長)
	北山 隆	(大阪音楽大学名誉教授)
	宮島 登美子	(TMS代表)
	小野 敏夫	(NPO法人クラシック音楽興隆会 理事長)
	砂野 耕一	(川崎重工株式会社 社友)
	室町 鐘緒	(株式会社三菱東京UFJ銀行 名誉顧問)
	山口 昌紀	(近畿日本鉄道株式会社 取締役会長)
	時政 幸雄	(関西電力株式会社 執行役員)
	井上 礼之	(ダイキン工業株式会社 取締役会長兼CEO)
	森川 敏雄	(株式会社三井住友銀行 特別顧問)
	佐野 吉彦	(安井建築設計事務所 代表取締役社長)
	羅 辰雄	(株式会社蓬萊 代表取締役社長)
	入谷 泰生	(日本クルーズ客船株式会社 代表取締役社長)
	鳥井 信吾	(サントリーホールディングス株式会社 代表取締役副社長)
	吉田 有宏	(千寿製薬株式会社 代表取締役社長)
	杉浦 正	(共和コーポレーション株式会社 代表取締役)
	川崎 益彦	(桜宮ゴルフクラブ株式会社 取締役社長)
顧 問	井戸 敏三	(兵庫県知事)
	荒井 正吾	(奈良県知事)
	久元 喜造	(神戸市長)
	アレン・グリーンバーグ	(アメリカ総領事)
	インゴ・カールステン	(ドイツ総領事)
	シャルル＝アンリ・ブローソー	(フランス総領事)
	ローデリック・ウォルス	(オランダ総領事)
	ナイリ・M・ラチーポフ	(ロシア総領事)
	マルコ・ロンバルディ	(イタリア総領事)
	クリストフ・ドゥ・バツソンピエール	(ベルギー大使館公使参事官)
	レー・クオク・ティン	(ベトナム総領事)
	ウィット・チットウィマーン	(タイ総領事)
	李 賢主	(駐大阪大韓民国総領事)
	多川 俊映	(興福寺貫首)
	鶴澤 寛治	(人間国宝 三味線奏者)
	ロニー・アレキサンダー	(神戸大学大学院教授)
	池長 潤	(カトリック大阪教区大司教)
	千 宗守	(武者小路千家 家元)
	高口 恭行	(一心寺長老)
	小野 善康	(経済学者)
	阿部 牧郎	(作家)
監 事	稲畑 勝雄	(稲畑産業 取締役 相談役)
	陳 英智	(三洋実業)

法人会員

(株) I H I 関西支社	サントリーホールディングス (株)	阪急電鉄 (株)
あいおいニッセイ同和損害保険 (株)	J F E エンジニアリング (株) 西日本支社	(株) 阪神住建
愛知時計電機 (株) 大阪支社	J F E スチール (株)	(株) 三井住友銀行
(株) アークエース	情報技術開発 (株)	三菱電機 (株) 関西支社
朝日放送 (株)	新コスモス電機 (株)	(株) 三菱東京UFJ銀行
稲畑産業 (株)	住友生命保険相互会社	ムジカティ
今津建設 (株)	千寿製菓 (株)	矢崎エナジーシステム (株) 大阪支店
江崎グリコ (株)	(株) 損害保険ジャパン	(株) 安井建築設計事務所
(株) エンポウ	ダイキン工業 (株)	山名酒造 (株)
大阪ガス (株)	(株) 大広	UCC 上島珈琲 (株)
(株) 大林組	(株) 大丸松坂屋百貨店	(医) 友仁会浅井整形外科
(株) カネカ	(株) 竹中工務店	讀売テレビ放送 (株)
(学) からたち幼稚園	(株) 丹陽商会	(株) ロイヤルホテル
関西テレビ放送 (株)	(株) データコントロール	ロックペイント (株)
関西電力 (株)	東京海上日動火災保険 (株)	トップツアー (株)
(株) 共和コーポレーション	中井エンジニアリング (株)	(財) 職業技能振興会
近畿日本鉄道 (株)	(医) 中野クリニック	三宝商会
(株) きんでん	日本クルーズ客船 (株)	南海電気鉄道(株)
(有) 神戸楽譜	日本生命保険 (相)	非破壊検査(株)
コーナン建設 (株)	日本郵船 (株)	大和ハウス工業(株)
桜宮ゴルフクラブ (株)	(株) 博報堂関西支社	(株) S B J 銀行 大阪支店
(株) 産業経済新聞社	(株) 白松	
三幸メリヤス (株)	パナソニック (株)	

東京法人会員

東京ガス (株)
大阪ガス (株) 東京支社
西部ガス (株) 東京事務所
東邦ガス (株)
フルライン (株)

休会

(株) りそな銀行

個人会員

北山 靖子	廣川 信一	角南 忠昭	吉田 好道	石村 孝夫	信楽 義彦	廣瀬 隆平
塩田 邦博	橋本 公宏	延 秀恵	米沢 康	重森 哲二	有賀 熙雄	酒井 俊幸
阿部 牧郎	羅 辰雄	延 敏恵	杉浦 正	堀 則明	黒田 千之	上田 美保子
藤田 直照	南 茂夫	平田 キヨ	中川 淳一	山田 信吾	大島 真理夫	西村 敦子
川岸 弘賢	小林 誠	浜辺 正昭	藤田 興二	松倉 孝夫	黄田 漢康	
小島 百合子	松村 達	大西 淑子	岩田 由孝	松倉 英子	宮本 敏子	
小川 寛	東條 良賢	越田 重雄	和久 公子	中西 守	岡本 千賀子	
高 仁宝	高田 満國	仲窪 菜穂子	里見 悦子	永重 史郎	竹田 忠士	
北浦 告三	高橋 香	竹澤 代資一	直田 春夫	野村 明雄	采女 佳子	
浅沼 健一	松本 好史	三好 具子	大西 國忠	長濱 一郎	津田 直樹	

東京個人会員

小野 敏夫
中島 久仁子
小野 久恵
樋口 多聞
石井 ふみ子
田中 佐代
梶原 健司

〈敬称略・順不同〉

1 環境

1-1

琵琶湖水質浄化の紙 (=レイクパピルス)の使用



(参考：レイクパピルスのロゴマーク)

2000年より日本テレマン協会では、主な主催公演のチラシ、プログラムに琵琶湖水質浄化を目的とする紙「レイクパピルス」を使用してきた。2000年当初はその企画が新聞・ラジオ・テレビで大きく取り上げられ、「環境」などをテーマに社会貢献という姿勢をいちやく示した演奏団体として、挙手することに成功した。

2014年度におけるレイクパピルスの使用は以下の通りである。

1：プログラムの使用

- ・一部につき400リットルの浄化
- ・今年度はマンスリーコンサートに10回、定期演奏会に4回、東京定期演奏会に3回使用
- ・合計5,400部作成
- ・2,160,000リットル(2,160トン)を浄化

2：チラシの使用

- ・一部につき200リットルの浄化
- ・今年度はマンスリーコンサートに8回と教会音楽シリーズに5回使用
- ・合計49,000部作成
- ・9,800,000リットル(9,800トン)を浄化

3：その他印刷物

- 1 「2013年度社会的活動報告」冊子の表紙
 - ・一部につき200リットルの浄化
 - ・600部印刷
 - ・120,000リットル(120トン)
- 2 「私が見た大阪文化」における使用
 - ・一部につき100リットルの浄化
 - ・1,500部印刷
 - ・150,000リットル(150トン)

4：2014年度に浄化した総計

- ・12,230トン

合計で12,230トンの水を浄化したという計算になる。さらに他団体への呼び掛けも進んでおり、2010度より大阪市ユースオーケストラでもレイクパピルスが積極的に使われるようになった。



(参考：2000年4月26日 朝日新聞)

2010年度よりサラヤ株式会社との協働により、マレーシア・ボルネオ島の熱帯雨林保全などを含めた「環境保全プロジェクト」に着手。計画の具体的な内容は年間6回の定期演奏会（大阪2回／東京4回）のチケット収入の1パーセントを、ボルネオの環境保全などに還元するというもの。その意図するところは代表の中野順哉による以下の提唱に基づいている。

「私たちは大阪の団体である以前にアジアの団体であり、また我々の日常はアジアの自然によって支えられている。演奏活動もそういった日常の上に成り立っているのであれば、そこから得た収入の一部を原点の保護にかえすべきではないか。2010年からの新機軸として『アジア・東洋の演奏団体』であることを、演奏を通して認識し直すような活動をしたい」

ただ、日本テレマン協会には「ボル

ネオの環境問題」についてその現状を直接見聞きした者は無く、現地で何が大切なのかを正確に理解しているとは言い難い。そこでその分野での活動経験の長いサラヤ株式会社に「年間6回の定期演奏会のチケット収入の1パーセント」をお預けして、今一番大事だと思われる活動への支援にあてていただくこととなった。

最初は「プランテーション化を防ぐ上での土地の取得に特化していただくことは出来ないだろうか」というテレマン協会からのリクエストもあり、それを受け形で「ボルネオ保全トラスト※1」がおこなう「緑の回廊※2」計画への支援という形になった。

テレマン協会が「最初は土地の取得で」ということに固執した理由は、大きく二つある。一つは野生の動植物と人間の共存には、「緑の回廊」の早急な実現が必要であると判断したこと。

もう一つの理由は協会音楽監督の延原がこよなくオランウータンを愛しているということも。

こういったもろもろの協会側の思いを、サラヤ株式会社は快く引き受け今回の協働が成立した。現段階はまずボルネオの森だが、その後様々な展開へと結び付けていきたいと両者は考えている。文化の団体と企業が一緒に「未来のためにできること、そして継続できること」「本当の文化的生活」の意味を演奏者・お客様とともに考えていければ、と思っている。

なお2014年度も引き続き、ボルネオの森林保護の問題とともに、震災への息の長い復興支援をも継続させたいという考えから、サラヤ株式会社との協議の結果、以下のような形の寄付を行うことになった。

- ・寄付する先は「ボルネオ・トラスト・ジャパン」
- ・目的はボルネオの森林保護
- ・ただしボルネオ・トラスト・ジャパンは、寄付金の50パーセントを「ジャパン・プラットフォーム」に寄付。
- ・結果的に、ボルネオの森林保護と震災復興への継続可能な支援が可能になる。

2014年度の寄付額は3万5千円。200円一口で畳一畳分の森を買い取るというトラストの活動に則った言い方を借りれば175畳の森を保全したことになる。

※1「ボルネオ保全トラスト」とは

ボルネオ保全トラストは、マレーシア・サバ州政府認可の環境保全団体です。野生生物局の関係者や生物学者、環境団体およびサラヤ㈱らによって設立され、傷ついた野生動物の救出活動のほか、生態調査や生息域となる「緑の回廊」実現に取り組んでいます。

日本窓口：ボルネオ保全トラスト ジャパン
www.bctj.jp

※2「緑の回廊」計画とは

アブラヤシ・プランテーション（農園）の無秩序な拡大による熱帯雨林の減少は、野生の動植物の生存危機だけでなく、動物と人間の間に摩擦を生み様々なトラブルを引き起こしています。そこでボルネオ保全トラストでは、野生の動植物の生存に最低限必要とされる川沿岸の開墾地を買い戻して森に再生し、プランテーションによって分断されてしまった森をつないで一つの大きな森「緑の回廊」にする計画に取り組んでいます。

「緑の回廊」が実現すれば、動物たちの食糧や繁殖機会の確保につながり絶滅危機を回避することができるだけでなく、動物の生息域と農業用地の両立という「環境と産業の両立」が実現できると考えられています。



ボルネオ保全トラストジャパンからの感謝状

2 地域の文化振興

2-1 各地のサロンづくり

関西クラシック国産宣言にも謳われるように日本テレマン協会はこれまで、アンチコンクール主義を標榜してきた。サロンを形成し、そこに集う演奏家と聴衆が一緒になって独自の価値観を生み出し、そこから奏者を育ててゆく——マンスリーコンサートを通して長年培ってきたこの「サロン→独自の価値観」という図式を、協会としては周辺の都市でも展開し、またその範囲を広げようとしている。

「町が変われば価値観も変わる」という「細分化された地方分権的な文化発信」を可能にする環境作りが、グローバル化＝価値の均

池田アゼリア公演

1977年より継続しているサロンコンサート。ある一定の時期に建設された市民会館の大半には、まだ「室内楽の公演」という意識はなく、音楽用には大ホールしかないというケースが多かった。元来池田市民文化会館もこのケースに属していたが、市の文化財団の熱意により、会館のエントランスをステージにして、室内楽の演奏会をはじめることになった。現在は会館内にイベントスペースが整備され、新たなシリーズが定着しつつある。固定ファンをベースに毎回200人規模のサロンが形成され、大阪倶楽部とは違った価値観を形成しつつある。2014年度の内容は以下の通り。

2014年7月26日

第40回バロックコンサート
二人のバッハとチェンバロ協奏曲
～モンティの名曲とともに優雅な午後のひと時を～
会場：池田市民文化会館
曲目：J.S. バッハ/チェンバロ協奏曲 第7番 ト短調
F. クライスラー/「愛の喜び」「愛の悲しみ」
V. モンティ/チャールダッシュ ほか
出演：指揮・オーボエ/延原武春
チェンバロ/高田泰治 ヴァイオリン/浅井咲乃
テレマン室内オーケストラ

川西公演

2014年よりスタート。後援会法人会員である三宝商事が主催者となって、これまで日本テレマン協会としては公演経験の無かった川西市で定期的に公演を実施することに。三宝商事は「三宝鉄道」と銘打ってこれまでにドイツ製の精密な大型列車模型をジオラマとして公開することで、地域に集いの場を提供してきた実績がある。社長の芝池巖氏の「大阪倶楽部で行われているようなサロン文化を川西市にも」という思いから実現。貴重なサロンコンサートとして協会としても全力投球をしていく。

2014年度の内容は以下の通り。

2014年8月17日

三宝鉄道コンサート
会場：アステホール（アステ川西6階）
曲目：G.Ph. テレマン/3つのヴァイオリンの
ための協奏曲
オーボエ協奏曲 ホ短調
A. ヴィヴァルディ/「四季」全曲
出演：指揮/延原武春 ヴァイオリン/浅井咲乃
テレマン室内オーケストラ

2014年11月30日

テレマン室内オーケストラシリーズ vol.2
J.S. バッハ ゴルトベルク変奏曲 BWV988
～時代とジャンルを超え、
感動を与え続けるアリアと30の変奏～
会場：アステホール（アステ川西6階）
曲目：J.S. バッハ/ゴルトベルク変奏曲
出演：チェンバロ/高田泰治 解説/中野順哉

伊丹酒蔵公演

2000年より継続しているサロンコンサート。伊丹市文化振興財団では「みやのま え文化の郷」の活性化やPRに積極的に取り組んでいる。日本テレマン協会も以前は「いたみホール」を舞台に、サロンコンサートの開催協力をしてきたが、2007年よりこの町の活性化企画に参加することに。会場は旧岡田家の酒蔵。毎回満員御礼で秋の名物となりつつある。またもともと「酒蔵で聞く」ということに興味を持っていた客層より「テレマンの音をもっと良い環境で聞きたい」という意見が多く出て、2013年5月18日アイフォニックホールでも公演。

2014年度の内容は以下の通り。

2014年10月19日

テレマンのバロック音楽の宴 vol.22
二人のバッハ ～時代を超えた奇跡の親子～
会場：旧岡田家住宅・酒蔵
曲目：C.P.E. バッハ/オーボエ協奏曲 変ホ長調
J.S. バッハ/チェンバロ協奏曲
第7番 ト短調
ほか
出演：オーボエ・指揮/延原武春
チェンバロ/高田泰治
ヴァイオリン/浅井咲乃
テレマン室内オーケストラ

貝塚コスモシアター公演

2005年から、コスモシアターとともに企画したサロンコンサート。チェンバロ、ヴァイオリン、ヴィオラ、オーボエ…様々な楽器や、カルテット、国によってかわる鍵盤楽器の魅力など、毎回テーマを明確にした講演型公演。年3回で構成されている。一時間の演奏会の後、お客とともに

に奏者もお茶とお菓子を楽しむ。

この公演をモデルとし、全国のホールに「サロン」を移植してゆく…というのもこの公演シリーズの大きな特徴だ。すでに宮崎県などに複数回紹介している。

2014年度の内容は右の通り。

ティータイムコンサートシリーズXIV

曾田健 バロック時代のチェロの役割
会場：貝塚市民会館コスモシアター
2014年9月27日
出演：オーボエ/延原武春 チェロ/曾田健
チェンバロ/高田泰治
2015年1月12日
出演：チェロ/曾田健 ピアノ/パブロ・エスカンデ
2015年3月22日
出演：チェロ/曾田健・境綾子・佐藤響・一樂恒

一化のなかで、日々重要性を増していると思われる。文化団体によるサロンづくりが、その地域に、時に需要の形、時に観光立国の可能性、時に「この住民であるという誇り」…様々なベクトルをもった可能性の芽を生み出し、ポテンシャルを最大限に引き出す。そんな文化にしかできない社会づくりの実例を今後も積み上げていきたいと考えている。

2014年度における「衛星サロン」の活動は以下の通りである。

高槻現代劇場公演

2005年より継続しているサロンコンサート。文化レベルの高い高槻の市民層に愛される高度な内容で構成されている。2014年度はJ.S. バッハの家庭的な愛をテーマに開催。ドイツでの研鑽・活動を通して急成長を続けている高田泰治の音楽性を「牽引車」として、テレマンの弦楽の魅力を中心に出した内容であった。

2014年8月30日
 ティータイムコンサート
 テレマン・アンサンブルが奏でるバッハの“愛”

会場：高槻現代劇場
 曲目：J.S. バッハ／2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調
 ブランデンブルク協奏曲 第5番 二長調 ほか

出演：指揮とお話／延原武春
 ヴァイオリン／浅井咲乃・三谷彩佳
 チェンバロ／高田泰治 フルート／出口かよ子
 テレマン・アンサンブル

アバンザ・ランチタイムコンサート

巨大な書店などでも利用者の多い堂島アバンザ。このオフィスビルのエントランスを舞台に無料コンサートを展開。2009年より日本テレマン協会が本格的にプロデュース参加。

2014年 4月11日
 第88回 C.P.E. バッハ礼讃
 2014年 6月13日
 第89回 「近世」ハンブルグで響いた音
 2014年12月12日
 第92回 アバンザより愛をこめて…
 2015年 2月13日
 第93回 バレンタインに贈るモーツァルト

松原ゆめニティ公演

1993年より継続しているサロンコンサート。駅近くの多目的スペースを舞台に、ポピュラーな曲目からマニアックな内容まで幅広いプログラムで楽しまれている。どのような切り口でも「なんとなく集まる」という客層をすでに有しており、ジェネレーションも2代目、3代目へと引き継がれている。

2014年度の内容は以下の通り。

2015年3月8日
 「テレマン」の若き巨匠——高田泰治が奏でる モーツァルトが愛した音～フォルテピアノの魅力を徹底追及～

会場：松原ゆめニティプラザ
 曲目：W.A. モーツァルト／きらきら星変奏曲・「クローエに寄る」
 F.J. ハイドン／クラヴィア・ソナタ 八長調 ほか

出演：フォルテピアノ／高田泰治 お話&バリトン／高曲伸和

うえまちコンサート
 ※次頁参照

うえまちコンサート

2008年より継続しているサロンコンサート。NPO法人まち・すまいづくりは「住んで楽しいまちづくり」をテーマにコーポラティブ住宅の推進と、市民参加のセミナーなどの開催を手掛けている団体。活動の本拠は上町台地周辺地域で、地域密着型の情報伝達媒体となる『うえまち』も発行している。

そして更なる魅力あるまちづくりを目指して、まち・すまいづくりは2008年よりタウンコンサートを始めた。「うえまちコンサート」と題されたこのシリーズは、会場を上町

台地にある様々な「集いの場」においているのが特徴。ホテルのチャペル、神社、寺、博物館…。第3回公演より協会としても正式に「協力」という形で参加することになった。

どちらかと言えばポピュラーな路線を好む傾向のあるサロンコンサートだが、中にはチェンバロによるかなりマニアックなソロコンサートや、海外からのアーティストが参加する公演もあり、緩急取り混ぜたコンテンツとなっている。

2014年度の公演は以下の通り。

2014年4月27日

大阪・ハンブルク友好都市提携25周年記念企画
第25回うえまちコンサート 大阪歴史博物館・春季特別展
～ハンブルクに始まる17世紀バロックの群像～

会場：大阪歴史博物館

曲目：J. ローゼンミュラー／室内シンフォニー第6番 八長調

J.H. シュメルツァー／五声のためのハルモニア

J.H. ビーバー／ヴァイオリン・ソナタ第3番 イ短調

G. ムファット／「音楽の花束」組曲 より序曲イ短調 ほか

出演：ヴァイオリン／ウツラ・ブンディース チェンバロ／高田泰治
指揮／延原武春 テレマン室内オーケストラ

2014年7月27日

第26回 うえまちコンサート
バロックの夕べ in 大阪市立美術館

会場：大阪市立美術館

曲目：M. ヴェックマン／4声のためのフーガ ニ短調

R. カイザー／3つのヴァイオリンのためのソナタ

C.P.E. バッハ／オーボエ協奏曲 変ホ長調

A. ヴィヴァルディ／「四季」全曲

出演：指揮／延原武春 演奏／テレマン室内オーケストラ
ヴァイオリン／浅井咲乃、大谷史子、中山裕一

2014年10月4日

第27回うえまちコンサート in 一心寺三千佛堂

会場：一心寺三千佛堂

曲目：J.S. バッハ／前奏曲とフーガ

G.F. ヘンデル／シャコンヌ

イタリア歌曲

ほか

出演：チェンバロ／高田泰治
歌／桜花昇ぼる

2015年1月25日

第28回うえまちコンサート うえまち新春コンサート

和と舞とウィーンと

～能楽堂を舞台に繰り広げる、和と洋のこぼれ～

会場：山本能楽堂

曲目：F.J. ハイドン／弦楽四重奏曲第67番 ニ長調『ひばり』

W.A. モーツァルト／オーボエ四重奏曲 へ長調

W.A. モーツァルト／ディヴェルティメント ニ長調

信時潔／「沙羅」

出演：オーボエ／延原武春 バリトン・舞／高曲伸和
弦楽／テレマン アンサンブル（カルテット）

2-2 講談と室内楽のコラボレーションによる「音楽絵巻」

地域の郷土史家などに直接取材をし、それを創作台本にして音楽をおりまぜる「音楽絵巻」という企画。主に講談などの日本の古典芸能と室内楽が共演。郷土史を見直し、地域住民とともに新たな発見をめざす完全なオー

ダーメイドのコンサートである。

この企画がスタートしたのは2002年だが、その後各地における認知度も高くなり、現在のべ90公演を実施。講談の作品数にして100作を突破している。

原則的に台本に対する著作権はフリーとし、二次利用、三次利用がしやすい状況を提供し続けている点も評価されている。ネット配信などを通し、町の魅力を広く伝えることが出来るツールとして幅広く使用してもらいた

いと考えている。

また複数のジャンルの講演とリンクさせた企画を作りたいという主催者も出てくるなど、より深い地域とのふれあい・心の通う文化振興の可能性も出てきている。



2014年度の公演詳細は以下の通り。

- 2014年 7月 日本クルーズ客船「びいなす見聞録 千島列島と神秘のフィヨルド・ロシア探求の旅」：音楽絵巻「高田屋嘉兵衛真伝」
- 2014年 7月 瀧川第二中高等学校：兵庫：音楽絵巻「真相アマデウス」
- 2014年 9月 ロシア総領事館：大阪：音楽絵巻「大黒屋光太夫」
- 2014年 10月 山本能楽堂：大阪：音楽絵巻「竹鶴物語」
- 2014年 10月 泰聖寺：大阪：アジア講談～オマーン編～



講演・朗読コラボレーション公演及び地域活性化講演公演のこれまでの履歴【参考】

2002年 3月	安土文芸セナリオ：滋賀：音楽絵巻「信長の聴いた音楽」	2008年 5月	安土文芸セナリオ：滋賀：音楽絵巻「信長が愛した音楽」
2002年 5月	神戸新聞松方ホール：兵庫：「メサイア」(日本テレマン協会公演)	2008年 6月	神河町グリンデルホール：兵庫： 神河音楽絵巻「銀の馬車道今むかし」
2002年 6月	大阪電気通信大学特別講座：大阪：講演「ヘンデルー代記」	2008年10月	伊賀上野城天守閣：三重：音楽絵巻「藤堂高虎」
2002年 6月	高槻現代劇場：大阪：音楽絵巻「ヘンデルー代記」	2008年10月	彦根観光協会(会場は彦根城博物館 能舞台)：滋賀： 彦根音楽絵巻「開国物語 井伊直弼外伝」
2002年 8月	石川県立音楽堂：石川：音楽絵巻「利家の聴いた音楽」	2008年10月	大阪商工会議所(会場はフジハラビル)：大阪： 音楽絵巻「フジハラビル物語」
2002年11月	尼崎市近松記念祭：兵庫：講演「国姓爺合戦」	2008年10月	守山市民ホール：滋賀： 守山音楽絵巻「人ゆえに、愛ゆえに…」
2002年11月	丹波国際音楽祭企画：兵庫：講演「走れメロス」「魔王」	2009年 1月	松江市総合文化センタープラパホール：島根： 音楽絵巻「松江城今昔秘話」
2003年 2月	柏原高等学校：兵庫：講演「おさん茂兵衛」	2009年 2月	びわこビクターズビューロー(開催地は江戸東京博物館)： 東京：ひこにゃんのでてくてく「歴史街道」
2003年 3月	鳳鳴高等学校：兵庫：講演「おさん茂兵衛」	2009年 2月	日本郵船「飛鳥II」南太平洋グランドクルーズ： 音楽絵巻「大江山奇談。鬼の道に、横道なし」
2003年 6月	貝塚市民文化会館コスモシアター：大阪： 「モーツァルトVSベートーヴェン」	2009年 3月	丹波の森公園ホール：兵庫： 創作講演と音楽のコラボレーション「恋路の丹波刀旅」
2003年 7月	大阪電気通信大学特別講座：大阪： 講演「ヴィヴァルディー代記」	2009年 6月	有馬・念仏寺：兵庫： 講演と室内楽公演「小さな島国のオルガン」
2003年 7月	新宮市民会館：和歌山：音楽絵巻「西村伊作」	2009年 7月	津沼市民会館：滋賀：音楽絵巻「淡海街道物語」
2003年11月	秋篠音楽堂：奈良：クララ・シューマンによる 「ショパンとリスト」	2009年10月	近江八幡市立資料館：滋賀：音楽絵巻「一柳満喜子伝」
2004年 4月	神戸市立葺合高等学校：兵庫：講演付き学校公演	2009年10月	伊賀上野：三重： 講演ウォーク「筒井定次」「藤堂高虎」他
2004年 5月	大阪電気通信大学特別講座：大阪：講演「バッハ一代記」	2010年 6月	大和高田さざんかホール：奈良：音楽絵巻「真・役小角伝」
2004年 7月	大阪倶楽部：大阪：大阪新音企画・音楽絵巻「近代文学散歩」	2010年 7月	兵庫県立芸術文化センター主催： 「キャンディード」プレ
2004年 9月	神戸新聞松方ホール：兵庫：音楽絵巻「アマデウス」	2010年 9月	伊賀県民局エントランス：三重：音楽絵巻「伊賀の乱」
2004年10月	熊野市民会館：三重：音楽絵巻「源平盛衰記」熊野古道編	2010年10月	伊賀県民局エントランス：三重：音楽絵巻「藤堂高虎」
2004年10月	湖東町(現東近江市)：滋賀：音楽絵巻「湖東商人銘々伝」	2010年11月	伊賀県民局エントランス：三重：音楽絵巻「藤堂高吉」
2004年11月	姫路東中学校：兵庫：講演付き学校公演	2010年11月	りそな銀行大阪本店地下講堂(ドイツ文化センター主催)： 大阪：音楽絵巻「恋模様刀の旅路」
2004年11月	東京国立博物館：東京：音楽絵巻「森鴎外」	2010年12月	多気町民文化会館：三重：音楽絵巻「二人の客人(まろうど)」
2004年12月	播磨町教育委員会：兵庫：音楽絵巻「漂泊」 (講演「ジョセフ彦」)	2011年 5月	小野市うるおい交流館エクラ：兵庫： ふるさと小野音楽絵巻III 「一柳満喜子伝～我もまた、いずれの日にか…～」
2004年12月	住吉区：大阪：音楽絵巻「熊野街道」	2011年 5月	茨木市市民総合センター：大阪： 音楽絵巻「茨木にこの男あり 片桐東市正旦元にて候」
2005年 1月	日本郵船「飛鳥」オセアニアクルーズ： 音楽絵巻「漂泊」他	2011年 7月	ハーモニーホールふくい：福井： 音楽絵巻「お江・・・越前北ノ庄哀歌」
2005年 2月	近江八幡市民会館：滋賀： 音楽絵巻「心に華開く時」山田良定	2011年 9月	日本クルーズ客船「ぱしふいっく・びいなす」 日本一周クルーズ：音楽絵巻「源平合戦外伝」
2005年 2月	大和高田さざんかホール：奈良：音楽絵巻「義経の七つ石」	2011年10月	灘区民ホール：兵庫：なだ音楽絵巻 「真・平清盛伝・灘編～改革者一海原に見た夢～」
2005年 4月	伊賀上野市民会館：三重：音楽絵巻「荒木又右衛門」	2011年10月	伊賀上野城天守閣：三重：音楽絵巻「藤堂高虎伝」
2005年 5月	大江山町：京都：世界鬼学会講演・講演「大江山異聞」	2011年10月	五條市市民会館：奈良：歴史音楽絵巻「救世主・松倉重政」
2005年 9月	高知県グリーンホール：高知： 音楽絵巻「山内一豊」土佐編	2011年12月	三木市文化会館：兵庫：三木高等学校音楽鑑賞会
2005年11月	東京国立博物館：東京： 葛飾北斎展企画・「真曾我兄弟」他2話	2012年 9月	泰聖寺：大阪：アジア講演～トルコ編～
2006年 1月	山東町ルツプラザ：滋賀：音楽絵巻「石田三成」	2012年10月	高槻現代劇場：大阪：キリシタン大名・高槻城主 「高山右近」と九州・大友宗麟の歴史の謎に迫る ～特別歴史解説と創作講演がつづるバロック音楽絵巻～ (2回公演)
2006年 3月	小野市うるおい交流館エクラ：兵庫：音楽絵巻「長祿の変」	2013年 1月	豊中市立ローズ文化ホール：大阪：音楽絵巻「豊中愛伝説」
2006年 7月	金光八尾高等学校：大阪：講演付き学校公演	2013年 6月	中央電気倶楽部：大阪： 音楽絵巻「断片」～七世鶴澤寛治の思い出～
2006年 7月	三鷹市風のホール：東京：音楽絵巻「新・功名が辻」	2013年 6月	泰聖寺：大阪：アジア講演～ヴェトナム編～
2006年 7月	掛川市シーネ：静岡：音楽絵巻「山内一豊」掛川編	2013年 9月	京都府立府民ホールアルティ：京都：音楽絵巻「山本寛馬」
2006年 7月	日本郵船「飛鳥II」カムチャツカクルーズ： 音楽絵巻「ある日の大黒屋光太夫」	2013年11月	旧西本組本社ビル：和歌山：音楽絵巻「チェレビー」
2006年 9月	大阪市役所：大阪：音楽絵巻「モーツァルト」	2014年 3月	ソフィア・堺(中文会館ホール)：大阪： 音楽絵巻「鈴木貞太郎新伝」
2006年10月	羽曳野市LICはびきの：大阪：音楽絵巻「源氏三代記異聞」		
2006年10月	東郷町：愛知：音楽絵巻「とうごう六景」		
2006年10月	名張市青少年センター：三重：音楽絵巻「藤堂高吉公一代記」		
2007年 2月	NECマイタウンコンサート：福岡：九州交響楽団共演		
2007年 4月	横須賀芸術劇場：神奈川：音楽絵巻「三浦一族記異聞」		
2007年 9月	びわこビクターズビューロー(開催地は神奈川県民ホール)： ：神奈川：音楽絵巻「信長が愛した音楽」		
2007年 9月	大東市サーティホール：大阪： 音楽絵巻「ぶらり大東今むかし」		
2007年 9月	伊丹ホール：兵庫：宝塚西高等学校音楽鑑賞会		
2007年11月	三田市総合文化センター：兵庫： 三田西陵高等学校音楽鑑賞会		
2007年11月	天理南中学校：奈良：文化祭イベント		
2008年 3月	小野市うるおい交流館エクラ：兵庫： 音楽絵巻「加古川筋一揆」		

2-3 平野区の「第九」

2000年より一般市民の希望者を公募し合唱団をつくり、「五カ年計画」でベートーヴェン作曲の交響曲第9番を指導。毎年達成したところまでを発表し、5年後には最後まで歌えるようにするという、直接的に「地域の文化意

識の向上」を実現させようという企画。市民の喜びは大きく、計画達成後、2006年度より毎年平野区の恒例行事として継続されている。

【2014年度の公演】

2014年12月17日

平野区クリスマスコンサート

～テレマン室内オーケストラとひらの混声合唱団を迎えて～
会場：コミュニティプラザ平野

曲目：サウンド・オブ・ミュージックより「エーデルワイス」ほか
W.A.モーツァルト/レクイエムより「ラクリモーサ」ほか
L.V.ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱付」より「第4楽章」

出演：指揮・オーボエ/延原武春

独唱/藤田瑞穂・葉谷佳苗・中塚昌昭・高曲伸和

ひらの混声合唱 テレマン室内オーケストラ

2-4 大阪商工会議所の活動への参加

大阪たのしも

2011年より開始された大阪商工会議所の運営する総合観光情報サイト「大阪たのしも」。これまで「ナイトカルチャー」として会議所とともに構築してきた活動も、総合的に発信されている。「大阪文化の魅力」を広く発信させる上で、当協会としても積極的に参加しているサイトでもある。2014年度にこのサイトを通して発信した公演は以下の通り。



日本テレマン協会マンスリーコンサート(大阪倶楽部)

2014年 第449回(4/30) 第450回(6/21) 第451回(7/22)
第452回(8/8) 第453回(9/26) 第454回(10/17)
第455回(12/2)

2015年 第456回(1/20) 第457回(2/20) 第458回(3/13)

大阪検定

検定合格者に対し、その級に合わせてプライスの違うコンサートチケットを提供。日々のコンサートも大阪の歴史を毎度重ねていることに…その現場の証言者となってもらいたいという思いからの参加である。

古典芸能×近代建築船場クイズラリー

大阪商工会議所の主催する観光と地域の魅力再認識をめざした試み。クイズラリーという形で日本テレマン協会のマンスリーコンサートも参加。またチケットなどの景品も協力した。

堺市南区御池台公演

老後を「楽しかった」と感じられる…高齢化社会の日本の文化団体が真摯に考えなければならぬ大きなテーマである。50周年の記念事業として40回を超える無料コンサートを展開した結果、そういった文化的

コンテンツが日本には少ないと痛感。そこでベッドタウンで「本物の演奏会」を体感していただくにはどうか…というコンセプトで町会長と相談の上、ヴィヴァルディ「四季」全曲を演奏。チケットは即日完売し、100

名を超える地域住民が演奏会を楽しみ、クラシックのCDを買うという動機づけにもなった。

このコンセプトは今後多くの企業とのコラボレーションという形を含めさらに深めて行ければと考えている。

2014年8月31日

わか街『御池台』で!!

ヴィヴァルディ「四季」全曲演奏

会場：御池台保育園

曲目：A. ヴィヴァルディ/「四季」

出演：指揮/延原武春

ヴァイオリン/浅井咲乃

テレマン室内オーケストラ



3 教育

3-1 日本テレマン協会の学校公演

日本テレマン協会は発足以来「子供向け」ではなく「子供のための」を基本コンセプトに各地で学校公演を開催してきた。その方向性も多様であり、通常の公演のほかにも演奏を得意とする生徒をソリストにした公演や、地域の子供たちで

一緒に歌う「第九」といった共演なども行ってきた。更には養護学校、不登校児童、重度の知的障害者などを対象にした公演も実施してきた。我々の公演に出会うことで実際に演奏家を目指したという例もある。

最近では講談によって音楽家像を描き、古典芸能の魅力から音楽に親しんでもらおうという試みも行っている。同時に興味の多様化する子供たちに対応すべく、身近な曲をバロック的に編曲し、それを共演することによって楽しみながら



このジャンルの魅力を体感してもらおうという試みも始めている。さらにはパナソニック株式会社との提携により、環境問題に対する問いかけを加味したプログラムも。「温暖化の中で失われる天然素材。楽器作りにも大きな影響を与えかね

ない状況をプロジェクターなどで紹介し、今聴いている音・感動を次世代の子供たちにも聞かせるためには…」そんな問いかけとともにヴィヴァルディ「四季」を聞いて考えるという内容だった。

2014年度は文化庁の体験事業にも

採択された。バロック音楽の魅力をそのまま伝えるということに留意した内容で、あえて敷居を低くするということは避けたプログラムを提供している。

2014年度の学校公演は以下の通りである。



2014年 4月 5日 三木市立自由が丘小学校
2014年 7月 16日 瀧川第二中等学校
2014年 9月 10日 恩納村立喜瀬武原小中学校
2014年 9月 29日 杵築市立八坂小学校
2014年 9月 30日 宇佐市立駅館小学校
2014年 10月 1日 佐伯市立上堅田小学校
2014年 10月 2日 国富町立木脇中学校

2014年 10月 6日 大谷中・高等学校
2014年 10月 9日 姫路市立山田小学校
2014年 10月 20日 沖縄県西原町立西原小学校
2014年 10月 22日 延岡市立岡富小学校
2014年 10月 23日 鹿児島市立郡山中学校
2014年 10月 24日 南さつま市立川畑小学校
2014年 10月 27日 えびの市立飯野中学校

2014年 10月 28日 鹿児島市立武小学校
2014年 10月 29日 都城市立山田小学校
2014年 10月 30日 曾於市立大隅南小学校
2014年 10月 31日 曾於市立大隅北小学校
2014年 11月 5日 多可町立中町南小学校

3-2 大阪市ユースオーケストラの指導・育成

延原武春は1980年代よりゲルハルト・ボッセらとともに大阪市ユースオーケストラの団体・奏者の育成に従事し、これまでに漆原啓子など多くの演奏家を輩出してきた。2010年からは団員の自主性の育成や、音楽を通してのコミュニケーションを図るた

めに室内楽にも取り組み始めた。現在でも延原のほか、今井良及びテレマン室内オーケストラの奏者による指導・教育は継続されている。

さらに2010年からは社会的貢献も視野に入れ、レイクパピルスの使用も開始した。

【2014年度の活動】

2015年3月1日
第43回定期演奏会
会場：クレオ大阪西ホール
出演：指揮/延原武春
大阪市ユースオーケストラ
テレマン室内オーケストラのメンバー
曲目：A. ヴィヴァルディ/「四季」全曲 ほか

3-3 アマチュア団体の指導・育成

フィルハーモニア福岡

2000年夏に福岡市内の大学オーケストラ出身者が結成したアマチュア管弦楽団。延原武春はその結成当初より指導・育成に当たっている。現在は参加者も増え約50名が在籍。年二回のペースで定期演奏会を続けている。

【2014年度の定期演奏会】

2014年8月3日
第27回定期演奏会
会場：西市民センターホール
出演：指揮/延原武春
曲目：L.V. ベートーヴェン/交響曲第6番
へ長調「田園」ほか

2015年2月8日
第28回定期演奏会
会場：アクロス福岡シンフォニーホール
出演：指揮/延原武春
曲目：L.V. ベートーヴェン/交響曲第3番
変ホ長調「英雄」ほか

コードリベット・コール

1952年に櫻井吉明氏が結成した大阪のアマチュア合唱団。1971年の共演以来日本テレマン協会との関係を深め、櫻井氏亡き後、音楽監督の延原武春が指導・育成に携わってきた。2014年度は2013年度に続き、日本テレマン協会主催による東日本大震災追悼コンサートにて共演。ブラームス「ドイツ・レクイエム」を好演。

【2014年度の活動】

2015年3月11日
東日本大震災追悼・復興祈念コンサート
会場：いずみホール
出演：指揮/延原武春
ソプラノ/木村能里子 パス/篠部信宏
orchestra Japan 2011
曲目：J. ブラームス/ドイツ・レクイエム ほか



3-4 信州大学学生との協働

4-7でも紹介しているトルコをテーマにした音楽会。その制作に協力をしてくださったのは信州大学人文学部准教授の濱崎友絵氏。その濱崎氏からの提唱で人文学部の学生さんと一緒に、2月に大阪で公演予定であったトルコの音楽を中心にした、室内楽コンサートを開催。会場は信州大学医学部付属病院エントランス。学生さんとともに地域のコミュニケーションの深化を目指した試みであった。

3-5 相愛大学学生との協働

相愛大学音楽学部音楽マネジメント学科准教授の松谷葉子氏の協力ののもと、マネジメント学科の学生さんとともにCD制作を実施（レコーディングは株式会社ナミレコード）。プロの仕事を実際に手伝えることで将来に役立つ技術力を強化。出来上がったCDは2枚。2015年にリリース。



3-6 関西学院大学との包括協定締結

日本テレマン協会の社会的活動に対し賛同をした関西学院大学が、「より良き社会の実現」という共通のスローガンのもと包括協定を結ぶ。具体的には関西学院大学の社会連携プロジェクト科目において、協会代表の中野が講義を2015年より担当することに。



4 都市の海外発信力強化

4-1 ハンブルク市・大阪市友好都市提携 25 周年記念公演

2014年はハンブルク市と大阪市が友好都市提携を結んで25年。「大阪が育んだ文化＝室内楽」を提唱している我々としては、室内楽をもって大阪市の魅力をPRできればという思いから、関連公演を16公演企画した。内容は以下の通りである。

大阪市・ハンブルク市友好都市提携 25周年記念企画 テレマンの「ハンブルク物語」

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1月21日 日本テレマン協会第447回マンスリーコンサート：大阪倶楽部 | 7月26日 第40回バロックコンサート：池田市民文化会館 |
| 1月26日 第24回うえまちコンサート：山本能楽堂 | 7月27日 第26回うえまちコンサート：大阪市立美術館 |
| 2月25日 日本テレマン協会第448回マンスリーコンサート：大阪倶楽部 | 8月2日 日本テレマン協会第452回マンスリーコンサート：大阪倶楽部 |
| 3月11日 東日本大震災追悼・復興祈念コンサート：いずみホール | 9月26日 日本テレマン協会第453回マンスリーコンサート：大阪倶楽部 |
| 4月11日 第88階アバンザ・ランチタイムコンサート：堂島アバンザ | 10月4日 第27回うえまちコンサート |
| 4月27日 第25回うえまちコンサート：大阪歴史博物館 | 10月10日 日本テレマン協会 第221回定期演奏会：いずみホール |
| 4月30日 日本テレマン協会第449回マンスリーコンサート：大阪倶楽部 | 10月17日 第92回アバンザ・ランチタイムコンサート：堂島アバンザ |
| 6月13日 第89回アバンザ・ランチタイムコンサート：堂島アバンザ | 12月12日 第93回アバンザ・ランチタイムコンサート：堂島アバンザ |

また同時に2014年は関西にドイツ総領事館が置かれるようになって140年という記念の年でもあった。そこで上記プログラムのうち、10月10日の定期演奏会を、その記念式典と同時に行う

ものとし、開演前に在大阪・神戸ドイツ総領事館総領事インゴ・カールステン氏による挨拶からはじめることとなり、総領事館より大変感謝される結果となった。一連の活動から「大阪の文化」が国

際的に開けている友情に満ちたものだというメッセージを発信することが出来たのではないかと感じている。



日本テレマン協会 第221回定期演奏会
 大阪市・ハンブルク市友好都市提携 25周年記念企画テレマンの「ハンブルク物語」 vol.14

大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館設立140周年記念公演
 C.P.E. バッハ 関西初演！
マタイ受難曲 1769年版
 C.P.E. Bach Mattheus-Passion 1769
 ～生誕300年のこの年、もう一つの「マタイ」が復活！～

指揮：延原武春
 福音史家：フローリアン・ペー
 イェス：高曲伸和
 ソプラノ：渡辺有香
 メゾ：山本有香子
 アール：眞木寛規
 バス：栗原信宏

合唱：テレマン室内合唱団
 管弦楽：テレマン室内オーケストラ
 (クラシカル楽器使用)

特別ゲスト：インゴ・カールステン
 (ドイツ連邦共和国総領事)

2014
10.10 (金)
 19:00
いずみホール
 S席¥6,000 A席¥4,000【全席指定】

主催：日本テレマン協会、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館
 協賛：ヨウキョウ、(一社) 住友化学株式会社
 後援：Bach-Archiv Leipzig、ライプツィヒ・バロック博物館
 お問い合わせ：日本テレマン協会 06-6348-1046 (平日10時-18時)
 www.teleman.or.jp

※本誌字里墨のご入稿はご遠慮ください。

この公演は「ホルネオの環境保全活動」を支援しています。
 日本テレマン協会がサクラや株式会社協賛による「ホルネオ環境保全プロジェクト」が実施した。地球温暖化をはじめ、多くの環境問題が顕在化する中、「アンプ」の活用が注目されています。アンプは再生可能な資源であり、多くの楽器の製造に不可欠な材料です。アンプの活用は、環境保全に貢献するだけでなく、楽器の品質向上にも効果的です。アンプの活用は、環境保全に貢献するだけでなく、楽器の品質向上にも効果的です。アンプの活用は、環境保全に貢献するだけでなく、楽器の品質向上にも効果的です。

自然派のクララ

4-2

「フェット・ドゥラ・ミュージック」啓蒙公演

「フェット・ドゥラ・ミュージック」とは1982年フランス文化省のモリス・フルーレ音楽舞踊局長が構想を練り、ジャック・ラング文化大臣が創設した発案した音楽イベント。夏至である6月

21日に「朝まで音楽を楽しむ！」というコンセプトでプロ・アマ問わずフランス全土で無料コンサートが開催される。現在100か国以上で実施している。

日本でも「音楽の休日」と訳し、無料コンサートを実施しているが、今一つ盛り上がりにかけている。フランス総領事シャルランリー・ブロー氏はこのイベ

ントを大阪に定着をさせたいと考えておられ、当協会に協力を要請。協会としてはそれをうけ、6月21日にマンスリーコンサートの一環として実施した。特に注目されたのは延原によるジャン・フランセ作曲の「花時計」。延原の描く花の絵とのコラボという前代未聞の企画であった。

4-3

サンクトペテルブルク市・大阪市姉妹都市提携35周年記念公演

2014年は同時にロシアのサンクトペテルブルク市と大阪市の姉妹都市提携35周年にもあたっていた。それを記念し、10月マンスリーコンサートではサンクトペテルブルクゆかりの音楽家・チ

マローザによる「宮廷楽師長」という一幕もののコミックオペラを公演。スライドなどを駆使し、楽団に演技を要求した内容は、指揮とバリトンを担当した高曲伸和のもとで大いに会場をわかせた。

4-4 ロシア総領事館公演

4-3同様のコンセプトの中で、ロシア総領事館でも演奏会を開催。ここでは室内楽演奏のほか、講談とのコラボレーションによる「音楽絵巻」を披露。内容

は大黒屋光太夫。江戸時代に漂流し、サンクトペテルブルクにまで行って女王エカテリーナに帰国嘆願をした光太夫の感じたロシアへの愛——その内面を描いた

内容であった。日本語を深く理解される総領事ラチーポフ夫妻は、ともにこの内容に感銘を受け満足していた。

4-5 オランダ総領事公邸公演

関西総領事団の主催による公演。関西総領事団の団長が現在オランダ総領事であることから、会場はオランダ総領事公邸

となった。当日は代表の中野が新たに編纂した「私の見た大阪文化」の発表も兼ねた。発行趣旨を説明し、主な参加者で

あった各国総領事に当協会の考えている大阪文化論を伝えた。その様子は新聞・テレビなどでも報道された。

4-6

タイ国王陛下御生誕87周年祝賀会における両国国家独唱

後援会新顧問となられたタイ総領事ウィット・チットウィマーン氏からのご依頼で、国王陛下御生誕87周年祝賀会において、当協会バリトンの高曲伸和が両国国歌を独唱。その後後任の総領事ドゥシット・メナーパン氏より心のこもった感謝状をいただき、今後のより深い当協会との関係を約束。信頼関係を深めることが出来た。

トルコ大使館の後援のもと、中野が推進しているアジア文化との交流コンセプトの一環として開催。2014年はトルコと日本の国交樹立40周年になることから、音楽会を通じた相互理解を試みた。また近年は「移民」についての議論も多く、特にドイツ文化を追求してきた当協会としては、現在ドイツの移民の代名詞ともいえるトルコと、その流入によって生まれた文化をテーマに企画した演奏会でもあった。プログラムとしては、1)トルコ人作曲家の作品 2)ヨーロッパ

人が受け取ったトルコ文化 3)トルコの土着の歌。それらをパブロ・エスカンデが室内楽演奏用に編曲。音楽会の内容としても「いままで一番楽しい演奏会だった」という声も多く、今後もこのようなコンセプトのコンサートを開催していきたいと考えている。



4-7 トルコ文化とのコラボレーション

4-8 「私の見た大阪文化」発行

「室内楽は大阪が育んだ音楽文化だ」という中野のセオリー。それをより深く掘り下げるために、文楽・ものづくり・大阪料理など、幅広いジャンルの大阪文化を取材し、「客との関わり」について論じた冊子を刊行。50年間大阪で育てられた団体として、市民とのアンサンブル力によって完成していった大阪文化の特色を独自の論として展開。英語を併記することで、主に各国総領事館に配布。大阪の高度な文化イメージを直接発信することに。

この冊子は今後も作成していく予定であり、また関西学院大学の授業でもテキストとして使用する。



日本テレマン協会とチャリティー

日本テレマン協会はこれまで阪神大震災やニューオリンズのハリケーン、JR福知山線脱線事故メモリアルコンサートのほか様々な災害へのチャリティーコン

サート活動を続けてきた。クラシック音楽のコンサートに対する社会の受け入れ方が年々変化しつつある中で、人と人をつなぐ場であるという理念を協会とし

ては今後も大切にしたい。そういった意味で「チャリティーコンサート」への参加を積極的にすすめてゆく考えである。

2014年度のチャリティーコンサートおよび募金活動への参加は以下の通りである。

- 1: ボルネオの環境保全活動 (1-2 参照)
- 2: マンスリーコンサートにおけるユニセフ募金活動への協力
- 3: JVC国際ボランティアセンターの主催による連続公演

【2014年度のJVC国際協力コンサート】

2014年12月6日

JVC国際コンサート2014 第26回東京公演

会場: 昭和女子大学 人見記念講堂

曲目: G.F.ヘンデル/オラトリオ「メサイア」(全曲・英語)

出演: 指揮/モノイ・カンブス 合唱/JVC合唱団

2014年12月13日

JVC国際協力コンサート2014 第21回大阪公演

会場: いずみホール

曲目: J.S.バッハ/クリスマス・オラトリオ第1-3部ほか

出演: 指揮/モノイ・カンブス 合唱/コードリベット・コール



※ JVC 国際協力コンサートとは

日本国際ボランティアセンター (JVC) の活動を応援するためのベネフィットコンサート。コンサートの収益はJVCに寄付される。実行委員長アイネス・M・バスカビルの「美しい

楽曲『メサイア』で、JVCのためのチャリティーコンサートを開きたい」という呼びかけに対しボランティアが集まり、1989年「JVCコンサート実行委員会」が発足。以来東京

では26回、大阪でも21回の公演が催されてきた。日本テレマン協会は1994年よりこのコンサートに参加。2009年以降は東京・大阪両公演に出演している。

2014年度版 一般社団法人日本テレマン協会 社会的活動報告

発行 一般社団法人日本テレマン協会

〒530-0002

大阪市北区曽根崎新地2丁目1-17

TEL06-6345-1046

FAX06-6345-1045

tij@cafe-telemann.com

<http://www.cafe-telemann.com/>

